

風土記の丘の花だより²¹⁴

今、そしてこれから見られる植物(2023年12月2日)

師走です。12月になりました。今年も残りわずか、風土記に咲いている花も、残りわずかとなりました。これからは「花だより」にとって厳しい季節となります。「どの花を紹介しようか」ではなく、「とりあえず、まず紹介できる花を探そう」から始めないといけませんからね。



修復古墳の左下にサンシュユの木があります。春には黄色い花を咲かせていましたが、今は真っ赤な実がなっています。それで「春こがね、秋さんご」と言われることもあります。公園などでは、たまにサンシュウとか、ひどい場合はサンシュなど書かれていることもあって、本当の名前があまり定着していないように思います。道からは少し下りて行かなければなりません、鳥に食べられる前に是非ご覧ください。この木はミズキ科で、おなじみのハナミズキなどと同じ仲間です。



木の枝やフェンスなどに巻き付いたヤマノイモにたくさんの「むかご」がついています。生で食べてもシャリシャリしておいしいですが、よく「むかごご飯」にさせていただきます。召し上がったことはありますか？この季節の野趣あふれるごちそう、という大袈裟ですが、なかなかおいしいものです。でも採ろうとすると、バラバラ落ちてしまうので、たくさん集めるのは大変です。むかごは難しい言葉で「珠芽」といい、これから芽や根が出て殖えていきます。



小早川家住宅の上の広場でヤツデの花がきれいに咲いています。ピンポン球ほどの大きさの花の集まりがたくさん固まって付いています。よく観察すると、花びらやおしべが付いているのと、付いていないのがあります。付いているのは両性花です。おしべや花びらが落ちてしまうと、めしべが発達します。そして虫が運んできた花粉を付けてもらって受粉します。どの花も、子孫を残すために様々な工夫を重ねながら進化してきたのですね。



ムクノキの葉がきれいな黄色に染まってきました。枝先を見ると黒っぽい実がたくさんなっています。この実は鳥もよく食べますが、もちろん私たちでも食べられます。おいしいか、と言われると返答に窮しますが、それほど美味しいものではありません。見た目は干しぶどうみたいですが、そんなに甘いものではありません。ムクノキはエノキと並んで雑木林を代表する落葉広葉樹です。かつてはニレ科で、ケヤキなどと同じでしたが、最近ではエノキとともにアサ科となり、ケヤキはニレ科のままです。ややこし！ 松下